

# 幼稚小學校研究集會參加報告 (3)

## 3 幼稚園班の研究について

千代田區立  
番町幼稚園

徳久孝

先頃千葉縣市川市に於て開催せられました關東地區研究集會に、初め幼稚園が加えられました事は、私共と致しまして本當に大きな喜びでした。

先づ市川驛につくと、そこに高々と掲げられた立看板に「小學校幼稚園」と肩を並べて書かれてありましたのでそこから肩身の廣くなつた思いを致しました。

六日間の期間中は實に時間正確で、八時半から講義、實際授業參觀、批評レクリエーション、午後は班に分れて班別研究といふ様にプログラム通りに

行なわれました。全體としての感想等は他の方々の御報告により既に御存知ですから、班別研究の様子及感想を二三申上げたいと存じます。全體が十三の班に分れましたが幼稚園は其の中の八班になり、全部で卅五名、指導部の方及小學校の先生方を除いた幼稚園の者は廿八名でした。群馬縣教育課から御出席の木村先生をチャマンとして討議が行はれましたが、休けい時間をとらないでよいから十分討議したいと言う班員の熱心な申出で、毎日一時から五時までみつしり研究を致しました。

「此の班は女ばかりの様ですね」とチャマンの先生がおつしやつた程、女性の發言が活潑でした事も珍しい事であつたと思ひます。

先づ第一日は、前以つて示された研究問題が六つありますが其のどれをとつて研究を進めていくか、又どの様な方法で行くか討議して、(1)「幼稚園と家庭との協力方法(2)「幼稚園教育はなぜ必要であるか」の二つをとり、第一日、二日は問題(1)について、三日と四日は(2)について研究するといふ様に大體の豫定を立てました。

- (1) 幼稚園と家庭との協力方法  
1 幼稚園と家庭とが相互に協力する必要があるわけ
- 2 幼稚園と家庭と協力する方法
- (2) 幼稚園教育はなぜ必要であるか  
1 幼稚園の目的は何か

2 幼稚園と小學校と相互に協力する必要があるわけ

3 幼稚園の地位

4 どうしたら一般社會の人に幼稚園の必要性を認識させる事が出来るか

以上の様に細かく項目をわけて、先づ1の「幼稚園と家庭が相互に協力する必要があるわけ」について考える事に致しました。之れはとりもなおさず「幼稚園の目標を達成する爲に必要である」といふことになると思ひますが、それは幼稚園の目的其の他の所で一踏に考える事とし、幼児の特質について考へて見ました。幼児の特質を身體的方面と精神方面に分けて見ますと

◎身體的特徴として

- (1) 發育成長の速度が速い
- (2) 運動機能が發達の途中にある
- (3) 罹病しやすい
- (4) 健康生活に對する良習慣の定着期である

(5) 頭が大きく、不安定な状態にある

等の事があげられました。

◎精神的特徴として

(1) 外界の刺激について反應が強い

5

(2) 自己中心的である

(3) 想像力が強く模倣性にとんでくる

6

(4) 興味中心である

(5) 未分化であり、現在は分るが過去の事は分らない

(6) 徹底的にきわめたい求知心がある

7

(7) 競争心がある

(8) 小さいものに對して愛情を持つ

8

(9) 情緒が次第に分化しつゝある

(10) 指導性を持つて来る

(11) 個人差がある

(12) 非常に發達の速度が強い

(13) 單純である  
等があげられ又、

◎社會性的特徴として

(1) 反こう期である

(2) 簡單なルールを守つて團體的

遊戯が出来る

(3) 自己を認識して他の者を見る事が出来る

(4) 指導者の位置に立つ者が出来る  
て来る

等の意見が出ました。此の間競争心については、幼児期は「競争心が強い」、「強くない」の二論が出て、兩方とも種々の實例を示して話され、同じ幼児期でも年令の低い者は競争心も少く、學令に近くなるにつれてはつきりして來るといふ事も言はれました。結論として「競争心はあるがその強い弱いは環境と個人差による」といふ事になりました。又幼児の社會性については社會性の擴大とリーダーについて問題になり四歳頃になるとグループがほしくなり、五歳頃には四人五人とグループが擴大されて行く、然しこれも環境によつて擴大のされ方に違いがあり、リーダーは「幼児の自我意識の芽ばえ、自分を認められたいといふ氣持と、幼児の力のあるものに頼るといふ雷同性がある事によつて、リーダーが

自然に生じて来るのである」といふ事  
になりました。

此の様にして討議されました第一日  
の問題は各自が翌日までによく整理し  
て来る事を約束して一日は終りまし  
た。

第二日は一日の結論を整理し再検討  
を行った結果次の様になりました。

### 幼児の特質

#### (1) 身體的特徴

- 1 發育の速度が早い
- 調和のとれた發育を促進さ  
せる必要がある。
- 抵抗力が弱い、疾病にかゝ  
りやすい。

○個人差が大きい

- 2 運動機能が發達してくる
- 3 健康に對するよい習慣の定  
着期である。

#### (2) 精神的特徴(社會的をふくむ)

- 1 自己中心的傾向が強い、自  
我が目ざめて来る
- 2 想像と現實との區別がつき

にくい

3 情緒は分化しつゝある

4 求知心が強い

5 集團意識が出て来る

6 個人差が大きい

以上にきまりました。次に「家庭と  
協力する必要があるわけ」は、幼児の  
特質からの外更に左の二つがあるとい  
ふ事になりました。

#### 1 幼稚園と家庭とが相互に協力する 必要のあるわけ

(1) 幼児の特質から

(2) 家庭生活と幼稚園生活の相違  
から

(3) 幼稚園教育の理解を社會人に  
深める

即ち各家庭と幼稚園とのつながりと

いふ様な狭いものにとどまらず、其の  
家庭を中心にして廣く一般の人に幼稚  
園教育の必要をわからせる様に努力し  
なければならぬ。其の點から言つて  
も十分に家庭と連絡し保育効果をあげ  
なければならぬのであります。

次に方法の問題に移り各園で實際行

つてゐる事を中心にして、研究を進め  
ました。

#### 2 幼稚園と家庭と協力する方法

- 1 連絡機關の活用(P.T.A. 母の  
會等と協力をする。例えば給食の  
時に手傳うとか運動會にも進んで  
母達が参加する等)
- 2 保育參觀：随時の保育を見てい  
たゞいて實際の子供の姿を知らせ  
て、懇談をする。
- 3 家庭訪問の實施：幼稚園側から  
家庭を訪問して環境、家族の人の  
様子を見て、懇談する
- 4 集會の開催：講演會、講習會、  
幻燈會等をして母親再教育と正し  
い文化を興える。其の他運動會、  
音楽會等
- 5 地區別指導：多忙の爲中々出ら  
れない親達の爲に、地區別のグル  
ープを作り夜等其親に先生が出掛  
けていつて、共同の問題で話し合  
ふ、勿論個別懇談も出来る。
- 6 連絡調査の報告

印刷物により幼稚園から家庭へ、

又家庭から幼稚園へ連絡する。

面接：個別に面接し懇談し指導する。

8 機関紙の発行：PTA新聞又は週報等により幼稚園の色々の事を連絡する。

9 社会施設の利用：電話、ラヂオ警察の利用、又健康面については保健所との連絡。

等があげられました。尙ほ具體的な問題として、家庭訪問について、連絡調査について實例をあげて話し合いました、其の結果。

### ○家庭訪問について

1 入園したら直ちに全園児の家庭をなるべく早期に一巡り訪問する

2 家庭訪問の理由を明にし誤解を招かない。

3 家庭の具體的な事實を知り家庭の寮圍氣をよみとる。

4 先づ幼児の長所を發見して話次に短所を話す様にする。

### ○連絡調査について

1 毎月生活表を作成して躰の効果

をあげる。

2 發育グラフを作成して健康に注意する。

3 連絡事項は必ず印刷物とし、印刷物には番號をつけて見落しをふせぐ。

4 廻覽板の制度による。

等の事があげられました。又家庭としては幼稚園のどんな點が一番知りたいか、幼稚園としては家庭の何が一番知りたいか、の二つについて考えて見ました。

(1) 家庭の立場から幼稚園の何が知りたいか。

丁度お子さんを幼稚園に現在通はせていらつしやる方々から左の様な事があげられました。

○子供が集園の中でどんな生活をしているか、友達とどんな關係にあるかをしりたい。

○其の園の保育計劃の大要をしりたい。方針、其の月の豫定、行事豫定等。

(2) 幼稚園の立場から家庭の何か

知りたいか。

○幼稚園に對する家庭の希望

○家庭に於ける園児の位置

○幼稚園でしている事がどの様に家庭に通じているか。

○幼稚園に入つてからの子供の變化。

以上があげられました。

第三日は實際保育參觀で市川の日出學園幼稚園部を見學させていたゞきました。參觀記は山村先生が發表されましたので略しますが、本當の姿の新保育を見せていたゞいた事と、先生の人格の子供への影響をはつきりと感じさせられました。何時間の討議よりも『百聞は一見に如かず』尊い物を得られたと思ひました。

第四日目の研究は(2)「幼稚園の教育はなぜ必要か」であり、其の1の「幼稚園の目的」について考へて見ました。日々保育を行つてゐる者が今更ら目的を云々するまでもない事ながらさて改つて、父兄や他の人々から「幼

幼稚園の目的は」と問はれた時簡単な言葉で言い表はされるには……といふ事になりなすと一同色々と考えてしまいました。

○人間完成の基礎を培ふ所である。

○子供の生活環境を整理して心身の調和的發達をはかり躰をすることである。

○幼児の内面的生活の充實をはかる。

○集團生活にそくした生活指導を行ふ所である。

○幼児の社會生活を満足させる所、等々種々あげられましたが、結論として左の様になりました。

### ①幼稚園教育の目的は何か

(1) 幼児の社會生活の意慾をみたす。

(2) 集團生活の中で日常のよい習慣をつける。

(3) よい環境の中で心身の調和的發達をはかる。

次は低學年との連絡問題として「幼稚園と小學校との相互に協力する必要のあるわけ」について研究致しました

此問題を研究しながら痛感しました事は、幼稚園の普及發達がまだ本當に不十分であるといふことでした。出席された地區の方々の小學校で、幼稚園を修了した者が一級に一、二名といふ現状でした、これでは本當の幼稚園の必要性は認めていたゞけず連けいも十分に出来ないのは勿論であります。

何よりも幼稚園の増設をはからなければならぬと思ひました。

○急激な變化をさける爲に協力が必要である。

○教育の一つの體系の中にあるのであるから相互の理解が必要。

○もつと幼稚園からいつたものの個性を尊重して伸して貰いたい。

○幼稚園の生活を理解して貰いたい。

○出来たら級を別にしてやつて貰いたい、等意見が幼稚園側から出ました

が、小學校の先生方から幼稚園から行つた子供についての御感想を伺つて見ました。

○集團生活に慣れてゐる。慣れすぎる點がある。

○物事の着眼點がよい。

○創作力が養はれている。

○繪畫による發表、其の他發表力にとむ

○大人に對して慣れ過ぎた態度がある

○家庭から來た者との差があるのでやりにくい等でした。

②幼稚園と小學校と相互に協力する心要のあるわけ

○子供達が幸福に正しく成長する爲に

●幼稚園の生活を知る

●小學校の生活を知る

●幼児の個性家庭状況をよく知る、といふことになりました。

第五日目は「幼稚園の地位」について研究を致しました。之れも目的と同様分つた様な事でありながら、「幼稚園とは如何なる地位にあるか」と改めて考へて見ると又私共は頭を悩ましたのでしたが、此れを左の二つの面から考へていく事になりました。

(イ) 學校體系の中の幼稚園の地位

(幼稚園のはたす役割)

(ロ) 一般社會に於ける幼稚園の地位

先づ(イ)の面から考へますと、

○小學校の前の教育をする所

○創作的表現に對する興味の芽ばえを喚起する所

○集團の中で幼児の身心の健康生活の基礎づけをする所

○幼稚園は家庭と小學校の間にたつてよい環境の中で躰に重點をおいて就

學前の基礎教育をする所

○集團の中で幼児の特質に應じて人格完成を目ざして基礎教育をする所

○等種々の意見が出ましたが、結局言わんとする所は同じなので、左の様にまとめました。

○「集團の中で幼児の特質に應じて心身の健康生活の基礎づけをする所」

(F)、**「一般社會に於ける幼稚園の地位」**は次の「どうしたら一般社會人に幼稚園の必要性を認識させる事が出来るか」とまとめて考へる事として直に此の問題に移りました。これでは結論として左の四項目があげられました。

(1) **幼稚園自體が一般社會人に幼稚**

**園の必要性を認識させる方法**

○組織の力による(P.T.A.協會、幼稚園協會、教育行政機關、教育關係者機關)

○幼稚園自體の活動(集會、機關紙の發行、地域別指導、幼稚園の解放、展示會)

○社會施設の利用(ラジオ、映畫、新聞)

○幼兒教育者の資質の向上

(2) **教員養成機關の内容充實**

(3) **教育行政機關**：(研修計畫、待遇改善、宣傳)

(4) **幼稚園の増設と施設及教育内容の充實**

如何に一般人に幼稚園の必要をみとめて貰おうと努力しても、現在ある幼稚園が充實した教育内容により、本當の教育を行ふのでなければ數だけ増しても、却つて逆効果になつてしまひます。それにはしつかりとした養成機關でよい先生を作り、行政機關に於ては絶えず此の先生方の待遇とか、研修に考慮して行かなければならないと思ひ

ました。

最後に、我々が日夜努力に努力を重ねているにもかゝらず一向に幼稚園の増設もされず發達しない其の原因は何であらうか、障害となつている點について考へて見ました。

○幼稚園の必要性を認識させる上に障害となつているもの

○財源の不足

○議員の認識不足：(衆議員——縣都、區、町會議員等)

○教育行政機關一般社會人の認識不足

○幼稚園教育者の能力不足

○保育所が兒童福祉法を逸脱している點

等があげられました、終りに文部省側から、

○幼稚園教育者が積極的に幼稚園教育をもち上げていかなければ、幼兒教育の向上はない、

○現在の幼稚園教育の實狀を具體的に文部省に話して貰いたい。

(四七頁下段)

(十五頁から)

四、母親の年齢によつて子供の理想像は推移して行く。これは母親自身の生活態度の推移従つて彼女らの育児態度の變遷を物語るものと思われる。最も積極的、信念的なのは三五—三九才の年代でこの以前及び以後は漸次消極的になつてゐる。

五、母親の觀る子供の理想像と兒童の求めている理想像を比較すると、兩者は廣い意味での社會的適應型である點では一致しているが、母親は情緒的像を強く望み消極的な適應型を理想としているのに反し、子供はもつと積極的な社會的を高く評價し情緒の安定に満足していない點に相違がある。

六、母親の「育児態度」が乳幼児期の子供に對して情緒の安定、家庭への適應に重點を置いてゐる事は妥當であるが學童期に入り子供たちが成長して、その學級生活、交友生活が次第に大きな空間を占てくる様になると母親の求めるものが子供の現實に即さない場面を生じ易くなることが考えられる。

子供たちは生長するにつれて母親以上に「社會人」になる母親たちは自己の生活空間を擴大することに留意し子供たちと共に進歩する様にしたものである。

人間科學としての心理學

小保内虎夫

兒童のみた理想の兒童プリント

後藤岩男

Journal of "Social Psychology", 1930

Journal of Experimental Education 1946

The young child in the Home 1929

(一九五〇・六・二五)

(二九頁より)

○このワークシヨップで學んだものを幼稚園教育の實際に生かして他にも廣めてもらいたい。

○小學校と一體になつて幼稚園教育の發展を計る様希望する。

以上の話があり全員は各地、各縣に歸つて「幼稚園の増設に努力する」申し合せをして散會致しました。

此の五日間の間に幼稚園班の最も大きな收獲として考へられました事は、此の班にいらしやつた小學校の先生方が、非常に幼稚園に關心を持たれ「幼稚園は必要ですね」「歸つたら増設に努力しますよ」と大いに認識を深められた事でした。一人でも多くの方達に正しい幼稚園の姿を知つていただき、組織の強化を計つていくのは何よりも大切な事であると思ひます。

今一つの收獲は、幼稚園の立場にある者は、一應自分の毎日をふり歸り、幼稚園の目的、幼稚園の地位、はたしてどれだけ自分達が實行してゐるであらうか、一般社會人にも理解してもらふ様だけだけの努力を拂つてゐるであらうか、そう考へて深く／＼反省させられた事でした。

おわび——前號「母の育児態度について」の執筆者和田豊子氏は和田典子氏の誤植です、謹んで筆者並びに讀者各位におわびいたします。